

## 研究成果の紹介

### 酒米新品種「Hyogo Sake 85」及び「兵庫錦」の種子休眠性

兵庫県で育成した酒米新品種「Hyogo Sake 85」「兵庫錦」の種子休眠性を調査した。「兵庫錦」は休眠性が浅く、前年産種子で問題なく発芽が揃うが、「Hyogo Sake 85」は「コシヒカリ」より休眠性が深いため、休眠性が消失する前々年産種子を使用するか、25℃ 4週間加温貯蔵の休眠打破処理する必要がある。

#### 内容

兵庫県では酒米新品種「Hyogo Sake 85」「兵庫錦」を育成し、海外輸出地域の嗜好を反映した新しい観点からの日本酒を検討している。「Hyogo Sake 85」については、県北部地域で3月下旬から4月上旬播種の作期で栽培されており、前年産種子の休眠が深い場合には、「コシヒカリ」に由来からみられるような発芽の遅速による育苗中の苗のバラツキが想定される。そこで、酒米新品種の種子休眠性及び休眠打破法について調査した。

2017年酒米試験地産「Hyogo Sake 85」「兵庫錦」の種子を冬季室温保管し、2018年4月3日から発芽試験を行った。比較品種として、休眠性が浅いとされる「山田錦」（酒米試験地産）、休眠性が深いとされる「五百万石」「コシヒカリ」（以上原種農場産）を用いた。次に、休眠打破処理として25℃ 4週間加温貯蔵し、種子の発芽率を調査した。

「兵庫錦」の発芽率の推移は「山田錦」とほぼ

同等で、休眠性は浅いと考えられる。一方、「Hyogo Sake 85」は、播種後8日目までは休眠性の深いとされる「コシヒカリ」より発芽率が有意に低く、休眠性はかなり深いと考えられる（図1）。このため、前年産種子を使用した場合、育苗時の出芽、苗立ちが揃わない可能性がある。

出芽、苗立ちを揃えるための25℃ 4週間の休眠打破処理は、「Hyogo Sake 85」の休眠打破に有効であり、浸種後6日目の発芽率は、「五百万石」や「コシヒカリ」より低いものの、無処理の35%に対して60%に向上した（図2）。また、その2日後の浸種後8日目には、休眠打破処理を行ったすべての品種でほぼ同等の発芽率となった。

#### 今後の方針

休眠性の深い「Hyogo Sake 85」は前々年産種子を使用するか、休眠打破処理を行い、浸種期間を1日以上長めにとることを指導する。

岩井 正志（農産園芸部 原種農場）

（問い合わせ先 電話：0790-66-2449）

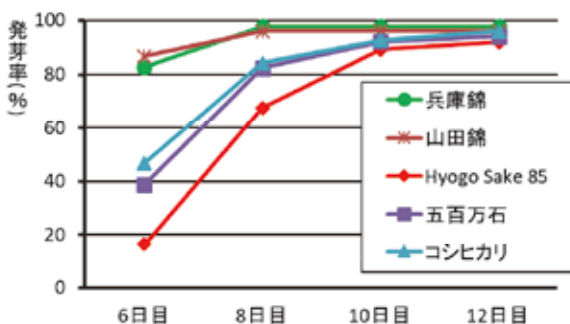


図1 休眠未打破粒における浸種後の発芽率の推移

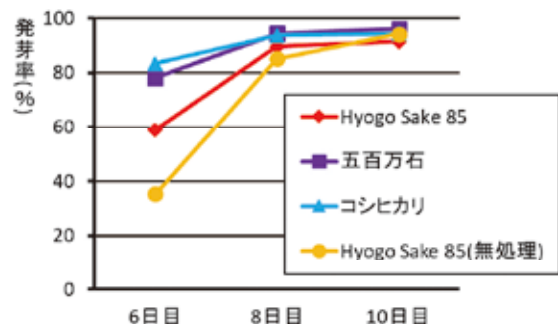


図2 休眠打破粒における浸種後の発芽率の推移